様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 15 日現在

機関番号：15201
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2009～2011
課題番号：21780205
研究課題名（和文）　集落コミュニティにおけるソーシャル・キャピタルの正負両面性とその発現メカニズム
研究課題名（英文）　Positive or Negative Role Played by Social Capital in the Performance of Rural Community Development and its Generation Mechanism
研究代表者
赤沢 克洋（AKAZAWA KATSUHIRO）
島根大学・生物資源科学部・准教授
研究者番号：70304037

研究成果の概要（和文）：ソーシャル・キャピタルや種々の集落内感情が中山間集落の活性化に何らかの役割を果たしていることが予想される．そこで，第１に，ソーシャル・キャピタルや種々の集落内感情が相互に効果を及ぼしながら集落の機能や活性化の水準に結びついていく様子，すなわち「ソーシャル・キャピタルと集落活性状況の因果構造モデル」を解明した．第２に，集落における人的繋がりの様子をネットワーク分析により解析した．

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify the role played by social capital in the performance of rural community development. For this purpose, firstly, I identify the structure of rural community development that contains any social capital and community functions as component elements. Secondly, I show the quantitative and structural understandings of human linkages in rural community by using social network analysis.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	500,000	150,000	650,000
2010 年度	700,000	210,000	910,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	1,700,000	510,000	2,210,000

研究分野：農学
科研費の分科・細目：農業経済学・農業経済学
キーワード：中山間地域，集落活性化，ソーシャル・キャピタル，構造方程式モデリング，社会ネットワーク分析

１．研究開始当初の背景

我が国の中山間地域においては，資源管理や生活扶助等の集落機能の低下，活力や活気の低下，若年者の流出と過疎の進行，担い手不足と就業機会の減少等，集落コミュニティに関する深刻な問題が発生している．

ソーシャル・キャピタルという概念が注目を集めている．ソーシャル・キャピタルが注目を集める理由のひとつはソーシャル・キャピタルの多様な正の効果に対する関心であり，ソーシャル・キャピタルと政府の質，社会的病理，健康増進，民主主義や市民社会の発展，犯罪抑制，経済成長，コミュニティ再生等との関連性が指摘されている．一方，「ソーシャル・キャピタルの暗黒面」，すなわち，結束型（拘束型，結合型）ソーシャル・キャピタルが負の効果を持つ危険性が議論されている．

これらの指摘と議論を拡張すると，①ソーシャル・キャピタルの増進が集落コミュニティの諸問題の解消に正負両面の効果を及ぼすという仮説を立てることが可能である．また，②多様な発現要因から構成され，かつ効果及び効果の発現要因に関する二重の正負両面性を持つような「ソーシャル・キャピタルの効果の発現メカニズム」が想定される．なぜなら，負の効果を発現させる要因としてソーシャル・キャピタルが内包する拘束感，強制感，排他性が想定されているが，我が国における集落コミュニティの独自性を鑑みると，世代や男女の平等性，リーダーの存在，一体感等もまた発現要因であり，さらに，各発現要因は効果を及ぼす対象に応じて正負両面の効果を持つ可能性があると想定できるからである．

以上のようなソーシャル・キャピタルの効果に関する仮説の検証及び発現メカニズムの解明を通して，ソーシャル・キャピタルの役割や働きを解明することは，集落コミュニティ問題を解消する方策を提示できる可能性を持つという点から意義があり，今日的課題であるといえる．

中山間地域等の集落コミュニティの諸問題を取り上げたものは，前述の赤沢他（revised paper）がある程度であり，研究蓄積は十分とはいえない．

また，ソーシャル・キャピタル研究全般をみても，正の効果に関する議論が中心であり，管見の限り，負の効果を定量的に検討した研究は十分ではなく，とりわけソーシャル・キャピタルの効果の発現メカニズムを解明した研究は皆無である．

以上でみたように，集落コミュニティの諸様相に対するソーシャル・キャピタルの役割を定量的，構造的に解明することは，新規性があり，社会的必要性も大きい．さらに，ソーシャル・キャピタルの効果の二重の意味での正負両面性を１つの分析視角とすることは，前述の解明をより深化させるとともに，ソーシャル・キャピタル論の発展にも大きく貢献するといえる．

２．研究の目的

本研究の目的は，以下の２点である．

①仮説「ソーシャル・キャピタルは集落コミュニティの諸問題の解消に正負両面の効果を及ぼす」を検証する．

②正負両面の効果が確認されたならば，発現要因候補との関連性に関する仮説を検証する．

３．研究の方法

(1)研究の目的①に関して

島根県Ａ市において集落の活性状況やソーシャル・キャピタルの賦存量に関するアンケート調査を実施する．このデータを用いて，集落活性及びその要因から構成される因果構造モデルを構造方程式モデリングにより推定する．この結果から仮説を検証する．

(2)研究の目的②に関して

島根県東部に位置する限界集落であるＡ集落における人的繋がりの状況を調査し，社会ネットワーク分析により定量的に解析する．

４．研究成果

(1)集落活性におけるソーシャル・キャピタルの役割に関する構造分析

集落活性の要因を構造的に明らかにするという枠組みの中で，ソーシャル・キャピタルの働きと役割を定量的に解明することを目的とした．具体的には，まず，集落活性の要因として，集落機能，つながり，信頼及び人間関係の各程度を想定した．なお，つながり及び信頼は既存研究で指摘されているソーシャル・キャピタル指標である．また，人間関係はソーシャル・キャピタルのより質的な側面を捉えることを企図して本研究で設定したものである．次に，集落活性及びその要因から構成される因果構造モデルを構造方程式モデリング（Structural Equation Modeling: SEM）により推定した．このために，島根県東部のＡ市において集落の活性状況やソーシャル・キャピタルの賦存量に関するアンケート調査を実施した．最後に，推定結果に基づき，つながり，信頼及び人間関係といったソーシャル・キャピタルが集落機能や集落の活性化に及ぼす影響の経路と大きさを検討し，ソーシャル・キャピタルの役割を明らかにした．

得られた主な知見は以下の８点である．

①ソーシャル・キャピタルは，直接的な経路，集落意欲の増進を介した経路，合意形成機能の強化を介した経路及び直接的な資源管理機能の強化を介した経路により集落を活性化させる．特に，集落住民に対する信頼感，リーダーの存在，集落の活動意欲といったソーシャル・キャピタルと合意形成機能の４者の結びつきが集落活性構造における根幹を成している．

②集落の活動意欲は，集落活性化に大きな影響力を持ち，また集落活性構造においてソーシャル・キャピタルと集落活性とを媒介する役割を担っている．

③リーダーの存在と集落住民への信頼感は人間関係全般の基礎的な役割を果たしている．これらのソーシャル・キャピタルは，活動意欲を始めとする人間関係全般を向上させ，合意形成機能を発揮させる点から集落活性への貢献が高い．

④人と人とのつながりは，活動意欲の増進，合意形成機能の強化及び直接的な資源管理機能の強化を通じて集落を活性化させる一方で，集落内の義務感と同様に直接的には集

落活性を阻害するため，集落活性への寄与が大きくない．
⑤集落の一体感は，人間関係の良さや信頼感等から生み出され，活動意欲の増進を通じて集落活性に貢献している．
⑥集落住民間の関係では，人間関係の強さは，活動意欲と資源管理機能を介した正の効果が大きく，集落活性に対する貢献がある．一方，人間関係の良さは，一体感から活動意欲を高めることを通じた促進効果と資源管理機能面からの阻害効果の二面性を持ち，集落活性にほとんど貢献しない．
⑦集落内の平等感は，集落活性構造において他の構成要素との関連性が低く，集落活性にほとんど影響を与えない．
⑧拘束感や強制感からもたらされるソーシャル・キャピタルの正負両面の効果が確認された．これらの効果は人と人とのつながりや人間関係の良さが集落活性に影響を及ぼす経路の多様性を生み出す要因の１つとなる．

(2)限界集落における人的繋がりの定量的把握と構造分析

限界集落の人的繋がりに関する知見を定量的なアプローチに基づいて提示することを目的とした．

第１の課題として，繋がりの多寡といった量に関する情報とともに繋がり方といった構造に関する情報も併せて把握した．具体的には，人的繋がりのネットワーク構造の形状を明らかにした．

第２の課題として，集落における人的繋がりのまとまりを定量的に検討した．

第３の課題として，年齢性別階層や親族関係の視点から，現状の人的繋がりの構造を維持している要件を明らかにした．

第４の課題として，人的繋がりを維持する要件として，ネットワーク構造において重要な位置を占める集落構成員の役割を明らかにした．

島根県東部に位置する限界集落であるＡ集落を調査対象地としたケーススタディの形式をとった．また，調査データの記述及び分析には，ネットワーク構造の定量的把握に関する性能に優れ，構造における構成員の役割に対する検討が可能な手法である社会ネットワーク分析を用いた．

島根県Ａ集落を対象としたケーススタディから得られた知見は次の８点である．
①『集落組織』及び『情緒』の人的繋がりは多くの構成員が比較的多い繋がりを持つことから比較的密度が高い網目状構造をとる．このとき，『情緒』に関する人的繋がりは，世帯内の繋がりの多さにより繋がりに偏りが生じている．また，「生活扶助」と「相談」に関する人的繋がりは，小規模かつ繋がりが密な世帯単位のいくつかのグループが分断または緩やかに接続したグループ接続型構造であり，「災害」に関する人的繋がりは自治会長を要とした放射状構造をとる．
②繋がりに関して孤立した構成員や分断したグループがみられる「生活扶助」と「相談」に関する人的繋がりは，集落全体でのまとまりの程度が高くない．一方，『集落組織』，『情緒』及び「災害」の人的繋がりは，年齢等のために所属しない構成員を除くと，集落構成員間の繋がりに関する距離が近く，まとまりがある．
③構成員が多いことと構成員数から期待される以上に人的繋がりが多いことに起因して『集落組織』と『情緒』の人的繋がりの維持に対する高齢女性の寄与が極めて大きい．また，構成員が多くない中で人的繋がりが多い壮年男性は，『住民扶助』，「自治会」など多くの人的繋がりの維持に一定の貢献がみられる．同様に，「生活扶助」，「相談」，「友好」の人的繋がりの維持に対する若年者の貢献がみられる．
④高齢女性，壮年男性，高齢男性は同一階層の行為者と繋がりをもつ傾向が強く，これらの階層内の結びつきが強いことが集落全体の人的繋がりの維持に寄与している．
⑤親族関係以外の地縁関係に基づいて人的繋がりが維持される程度が大きいが，親族関係は人的繋がりの維持に正の影響を与えている．期待される以上に繋がりの維持に親族関係の貢献が特にみられるのは，世帯内では『住民扶助』と『情緒』の人的繋がり，親戚間では『集落組織』の人的繋がりである．
⑥「災害」の人的繋がりでは，自治会長が放射状構造の要となり，まとまりをもたらす媒介の役割を担っている．また，「生活扶助」，「相談」，「自治会」，「集落協定」などの人的繋がりにおいて，世帯と集落，異なる年齢性別階層の構成員を繋ぎ，まとまりを維持する役割を果たす複数の集落構成員の存在が確認できる．
⑦媒介の役割を特定の構成員が担う程度は「災害」，続いて「生活扶助」，「相談」で大きく，『集落組織』及び『情緒』の人的繋がりでは，特定の構成員の寄与の程度は小さく，主に個々の構成員の比較的平準な繋がりによりまとまりが維持されている．
⑧網目状構造である『集落組織』及び『情緒』の人的繋がりは，集落構成員の状況変化に対してまとまりが頑健である．一方，放射状構造である「災害」，グループ接続型構造である「生活扶助」，「相談」の人的繋がりは，その維持が特定の集落構成員の媒介力に依拠しているため，状況変化に対して頑健ではない．

(3)地方公共文化施設に対する住民の満足感に関する構造

住民の満足感の構造には，地域住民のソーシャル・キャピタルと関連の深い概念（まちの誇り，まちの魅力等）が含まれる．そこで，島根県益田市に位置する島根県芸術文化センター「グラントワ」（以下，グラントワ）を分析事例として取り上げ，第１に，各役割が満足感をもたらすメカニズムとその結果である各役割の相対的な重みを明らかにすること，第２に，満足感の差をもたらす要因を検討した．このための接近の端緒として，構造方程式モデリング（Structural Equation Modeling: SEM）を用いて地域住民のグラントワへの満足感と各役割の構造モデルを推定した．

グラントワを対象としたケーススタディながら，本研究で得られた主な知見は次の 4 点である．

①地域住民の満足感への効果が相対的に大きいのは，文化利用，ランドマーク，文化教育であり，まちの誇りがこれらに次ぐ．このように，本来的な役割だけでなく，ランドマークやまち誇りのような地域活性化に資する副次的な役割もまた，地域住民の満足感にもたらす効果の点から地方公共文化施設が担うべき役割として重要である．ただし，地域活性化に資する役割の中でも産業活性やまち魅力は，相対的に重要とはいえない．

②文化利用から満足感への間接効果は，ランドマーク，文化教育，まち誇りとの相乗効果に基づいたものが主であり，満足感のメカニズムにおいて中核を成す．

③ランドマーク，文化教育，まち誇りは，満足感のメカニズムにおける他の役割からの効果の受け手としての働きの点からも地方公共文化施設が担うべき役割として重要である．

④地域住民間の満足感の差をもたらす要因として，各役割に対する地域住民間の評価の差があげられる．一方，地域住民間の満足感の構造の差は要因とはいえない．

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

1. 赤沢克洋・出雲井寛子，地方公共文化施設に対する住民の満足感に関する構造分析，農業経済研究別冊 2011 年度日本農業経済学会論文集，査読有り，pp.231-238，2011.

2. 赤沢克洋・松岡奈津子，限界集落における人的繋がりの定量的把握と構造分析－島根県 A 集落を対象とした社会ネットワーク分析によるケーススタディー，農村生活研究，査読有り，54(1)，pp.19-31，2010.

3. 赤沢克洋・稲葉憲治・関耕平，集落活性化におけるソーシャル・キャピタルの役割に関する構造分析，農林業問題研究，査読有り，45(1)，pp.1-13，2009.

〔図書〕（計１件）

1. 赤沢克洋，「第 4 章　中山間集落におけるソーシャル・キャピタルの特性に関する構造分析」，　谷口憲治編著『中山間地域農村発展論』，農林統計出版，pp.81-101，2009.

６．研究組織

(1)研究代表者

赤沢 克洋（AKAZAWA KATSUHIRO）
島根大学・生物資源科学部・准教授
研究者番号：70304037

(2)研究分担者

（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者

（　　）

研究者番号：